

令和7年度 大宅中学校教育について

京都市立大宅中学校
校長 大町 静代

≪ 学校教育目標 ≫

「ともに学び ^{たくま} 逞しく成長」

～ 目指す生徒像 ～

自ら判断し行動する生徒

- 1 他者とのつながりを大切にし、いじめをしない・させない・許さない生徒
- 2 挨拶ができる生徒
- 3 自ら学ぶ意欲を持ち、協働する生徒
- 4 夢や希望を持って未来へ向う生徒
- 5 多様化する未来を切り拓き、夢や希望を持って成長する生徒

○資質・能力の育成

- ・協働的に活動する力（主体性と社会性の育成）
- ・自ら課題を見つけ、話し合う力
- ・探究的に問題を解決する力
- ・規範意識の育成（自ら律する力の育成）

○生きる力の育成

- ・探究的な学習の実現からキャリア教育の充実
- ・「道徳」を基にした道徳教育の充実
- ・いじめ防止の取り組みと人権教育の充実

≪ 学校経営方針 ≫

～ 今年度の重点 ～

- 1 主体的・対話的で深い学びを目指した授業、個別最適化を目指す GIGA 端末の活用授業の実践に向けた授業改善を進める
- 2 保護者、小学校、地域と連携し「チーム大宅」としての自覚を持って取り組む
- 3 職責を自覚し、専門性を高めるとともに、働き方改革に取り組む

～ 目指す学校像 ～

支え合える学校

- 1 挨拶と笑顔があふれ、子どもたちが安心できる学校
- 2 規律がある中に、互いを尊重し、ともに支え合える学校
- 3 生徒、教職員が学校や校歌を誇りに思える

～ 目指す教職員像 ～

意欲を持ち、生徒保護者に寄り添う教職員

- 1 専門職としての自覚と誇りを持ち、資質向上に努める教職員
- 2 生徒、保護者に寄り添い、丁寧な対応ができる教職員
- 3 教職員体制“チーム大宅”を意識して行動できる教職員

○実践

- ・生徒会活動、学校行事の充実及び学級、学年集団づくり
- ・主体的・対話的で深い学びを目指した授業の実践（授業改善の推進）
- ・小中一貫教育の推進
- ・心の教育と生徒指導の推進（「繋がり」「寄り添い」を大切にした教育の実践）
- ・総合育成教育の充実

～ その他 ～

1 働き方改革推進

全教職員が協力して取り組む

- ① 時間を意識した働き方の推進・・・通常18時30分閉校を目途にする
- ② 業務の効率化
- ③ 業務の精選・適正化
- ④ 電話対応時刻の設定（留守電 朝8時00分解除 夕刻17時30分設定開始）

2 部活動について

- ① 週当たり2日以上の休養日を設ける

（平日は少なくとも1日、土曜日及び日曜日は少なくとも1日以上を休養日とする）

※大会参加等で活動した場合は、休養日を他の曜日に振り替える

- ② 長期休業中の休養日の設定は、学期中に準じた扱いを行う

- ③ 生徒が“やりがい”を感じられるような活動とする

3 開校当時からの「人、物、時を大切にし、志ある豊かな心を育む」ことは、今後も引き続き大切にしていく